

船舶事故等調査報告書

平成21年2月26日
運輸安全委員会(海事専門部会)議決

事故等番号	2008横第83号									
事故等名	油送船第六富士宮丸乗場									
発生年月日時刻	平成20年8月25日12時30分ごろ									
発生場所	京浜港川崎第一区 多摩川繋船場									
事故等調査の経過	調査の概要:平成20年11月26日 横浜・地方事故調査官が海難報告書を精査し、船舶所有者から電話聴取及び所属繋船場協同組合から繋船現況を入手 原因関係者からの意見聴取:意見なし									
認定した事実										
船種・船名・総トン数	油送船 第六富士宮丸 199. 29トン									
船舶番号(IMO 番号)	126166									
船舶所有者等	富士海運株式会社									
船種・船名・総トン数										
船舶番号(IMO 番号)										
船舶所有者等										
乗組員等に関する情報	船長 四級海技士(航海)									
負傷者	負傷者 なし									
損傷	推進器損傷									
事故等の経過	本船は、埼玉県八潮市の三愛石油東京オイルターミナルから、繋留地の川崎多摩川繋船場沖に着き、着岸しようと行き足を微速前進にしたところ、平成20年8月25日12時30分ごろ、推進器に衝撃を受けた。衝撃の結果、プロペラを損傷した。									
事実を認定した理由	<table border="0"> <tr> <td>気象・海象の関与</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>乗組員等の関与</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>船体・機関等の関与</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>判明した事項の解析</td> <td>多摩川上流からの土砂が年次とともに堆積し、水深が浅くなっていた可能性があると考えられる。 管理者は、繋船場の水深の維持、管理を十分に行っていなかった可能性があると考えられる。</td> </tr> </table>	気象・海象の関与	あり	乗組員等の関与	あり	船体・機関等の関与	なし	判明した事項の解析	多摩川上流からの土砂が年次とともに堆積し、水深が浅くなっていた可能性があると考えられる。 管理者は、繋船場の水深の維持、管理を十分に行っていなかった可能性があると考えられる。	
気象・海象の関与	あり									
乗組員等の関与	あり									
船体・機関等の関与	なし									
判明した事項の解析	多摩川上流からの土砂が年次とともに堆積し、水深が浅くなっていた可能性があると考えられる。 管理者は、繋船場の水深の維持、管理を十分に行っていなかった可能性があると考えられる。									
原因	本事故は、本船が着岸する際、川底に土砂が堆積して水深が浅くなっていたため、川底に乗り揚げたことにより発生した可能性があると考えられる。 繋船場管理者が、繋船場の維持、管理を十分に行っていなかった可能性があると考えられる。									
その他の事項	なし									